

草潤中に県内プロのアトリエ開設

不登校特例校

岐阜市金宝町の不登校特例校「草潤中学校」で、県内在住のプロイラストレーターと生徒が交流する取り組み「産学ブースプロジェクト」が進められている。校舎内にイラストレーターが活動するアトリエを開設したり、廊下の壁をキャンバスにしてイラストを制作したりする活動を通して、一般的な公立中学校では体験できない学びを生徒に提供する。学校関係者は「人と接する機会が少なかった生徒にとっては大きな支援。こうした活動を通して、将来世界で活躍する生徒を輩出できる学校にしたい」と話す。

(山本貴史)

同校運営協議会に参加する岐阜信用金庫が、学校側から依頼を受け、加藤栄三・東一記念美術館(同市大宮町)と連携してイラストレーターの派遣をサポートした。在籍する生徒に、カリキュラムの希望を聞くアンケートを実施したところ、イラストやアニメに関する要望が最も多かったという。

イラストが学び後押し



廊下にキャンバス、一緒に制作へ

プロジェクトは10月に開始。校舎4階の特別教室1部をサテライトアトリエとして使い、県内在住イラストレーター9人でつくる「岐阜新文化会」のメンバーが、週1日以上訪れて作品を制作す

「こつ聞けて勉強になる」

トを制作・展示する取り組みも始めており、生徒も制作に携わることを目指す。

イラストレーターの制作作業を間近で見たり、アドバイスを直接聞いたりして、生徒は刺激を受けている。絵画に関わる仕事が将来の目標という3年の女子生徒は、「イラストレーターの来校日を楽しみにしている。こつを直接聞

けて勉強になる」と充実感を口にする。岐阜新文化会メンバーの小島千枝さんは「生徒に見られながら絵を描く環境は楽しい。制作を期待してくれているので励みにもなる」とやりがい話す。

学校は今後、同金庫の公益財団法人「ぎふしん記念財団」から年間30万円の活動補助費の寄付を受け、講師料や画材費用に活用する。井上博詞校長は「生徒が継続してイラストレーターと関われるのは貴重な機会で、不登校支援にも効果がある」と意義を強調。「今後も他の分野の講師を呼んで学びが提供できれば」と、プロジェクトのさらなる発展に力を入れる考えを示した。

サテライトアトリエでイラストレーターに見守られながら絵を描く生徒＝岐阜市金宝町、草潤中学校